

平成20年度 決算の概要

1. 一般会計の決算額は、歳入 18,493,994 千円（前年度比 4.8%の増）、歳出 18,253,155 千円（前年度比 5.0%の増）、差引形式収支で 240,839 千円となり、翌年度に繰り越すべき財源 4,546 千円を除いた実質収支では、195,379 千円の黒字（対前年度比 16.2%の減）となった。

特別会計では、歳入 8,370,809 千円、歳出 8,262,594 千円、差引 108,215 千円となった。

また、企業会計全体では、収益的収支で収入 6,059,166 千円、支出 6,596,935 千円となり、差引 537,769 千円の損失となった。

2. 特徴点（一般会計）

- (1) 平成20年度の我が国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界金融危機と世界同時不況の影響を受け、下半期には過去に例を見ないスピードで景気の悪化が進行した。政府の雇用対策、中小企業支援、生活者支援をはじめとする財政上の措置、日銀による金融緩和等により景気の底割れは回避したものの、経済見通しにおいては下振れリスクが残り、先行きへの不安を払しょくするまでには至らなかった。
- (2) 市税は、法人市民税や市たばこ税は減少したものの個人住民税等が増加したことにより対前年度比 0.2%の増となった。
- (3) 歳出では、乳幼児・小児医療費の無料化の継続（小学6年生まで）、妊婦健診費用の助成、デマンドバスの毎日運行など福祉施策の充実、中学校の耐震補強工事など学校施設の整備を積極的に実施した。また、神戸電鉄樫山駅周辺整備、粟生駅周辺整備、河合運動広場の全面改修や大池総合公園周辺道路の整備など、引き続き都市基盤整備事業を推進した。さらに、公共事業用地等として浄谷町等の土地約 96ha を取得した。
- (4) 地方債現在高は、144 億 3,922 万 3 千円で対前年度比、約 5.4 億円の減（△3.6%）となった。また、積立金現在高は、財政調整基金の取崩しなどにより、76 億 3,322 万 6 千円となり、対前年度比、約 2.5 億円の減（△3.2%）となった。

経常収支比率は、前年度と同じ 92.4%となった。

3. 国民健康保険特別会計は、歳入で 4,895,888 千円（対前年度△43,066 千円 △0.9%減）、歳出で 4,883,486 千円（対前年度△32,559 千円 △0.7%減）となった。

主なものとしては、保険給付費（対前年度 103,585 千円 3.2%増）、後期高齢者支援金等（対前年度 527,582 千円 皆増）、老人保健拠出金（対前年度△687,899 千円 85.4%減）等である。

4. 老人保健特別会計は、高齢化の進展に伴い増大する老人医療費に対応するため、平成 19 年度末をもって廃止されることになった。平成 20 年度の運営は、老人保健制度として最後の診療月となる平成 20 年 3 月診療分、及び 2 月診療以前の月遅れ請求分等に対する老人医療費の給付を中心に行った。歳入で 400,456 千円（対前年度△3,569,582 千円 △89.9%減）、歳出で 419,928 千円（対前年度△3,584,098 千円 △89.5%減）となった。

なお、歳入歳出差引不足額は、平成 21 年度に清算交付される国庫支出金等の追加負担金を充てるものである。

5. 介護保険特別会計は、歳入で 2,725,375 千円（対前年度 126,928 千円 4.9%増）、歳出で 2,616,320 千円（対前年度 73,376 千円 2.9%増）となった。

要支援・要介護認定者が 20 年度末で 1,610 人（19 年度末 1,558 人）となり、保険給付費が 2,388,348 千円で 2.5%の増となった。また、地域支援事業費も 73,893 千円で 19.9%の増となった。

6. 後期高齢者医療制度は平成 20 年 4 月からスタートすることとなった。老人保健特別会計で歳出の 9 割以上を占めていた医療費等に対する給付は運営主体である兵庫県後期高齢者医療広域連合が行うこととなった。後期高齢者医療特別会計では、保険料の徴収と徴収した保険料等の広域連合への納付を行った。歳入は 349,090 千円、歳出は 342,860 千円となり 6,230 千円の黒字となった。

7. 企業会計

・都市開発事業会計では、収益的収支で 219 千円の黒字。

資本的支出では、産業拠点等整備事業用地 48,206.72 m²を取得した。

・病院事業会計では、収益的収支で 213,398 千円の赤字。

資本的支出では、自家発電設備の改修、医師公舎、看護師宿舎改修工事、医療機器の整備、を行った。

・水道事業会計では、収益的収支で 75,500 千円の黒字。

資本的支出では、21 年度の完成に向けた船木浄水場整備事業のうち第 1 期工事である膜処理施設を建設した。また、老朽配水管布設替工事等を実施した。

・下水道事業会計では、収益的収支で 400,090 千円の赤字。

資本的支出では、王子町の雨水整備、小野ニュータウン地区の下水道整備を実施した。